

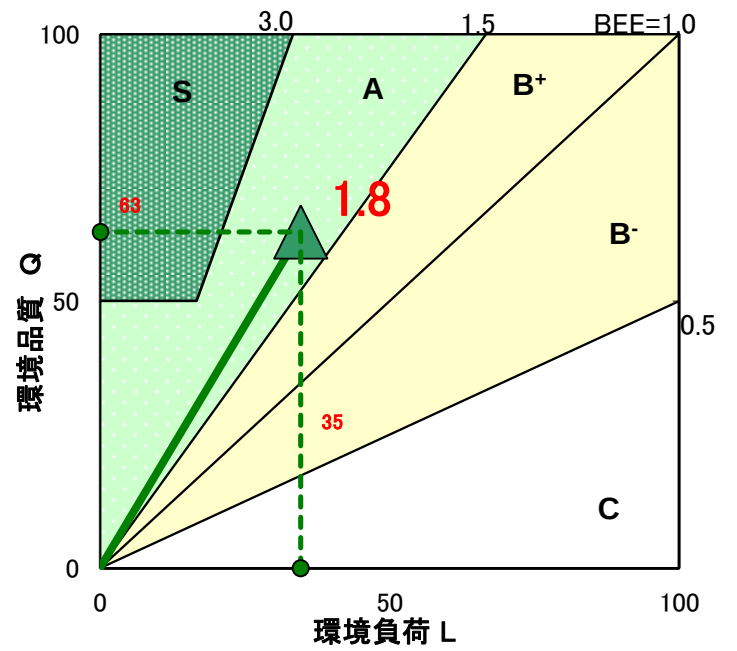
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	西日本システム建設本社ビル(仮称)	階数	地上5F	
建設地	熊本県熊本市中央区萩原町427番6	構造	S造	
用途地域	工業地域 法22条地域	平均居住人員	150 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	1,920 時間/年	
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年4月 予定	評価の実施日	2014年5月30日	
敷地面積	7,642 m ²	作成者	埜	
建築面積	1,146 m ²	確認日	2014年5月30日	
延床面積	5,356 m ²	確認者	森田	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)





■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



BEE = 1.8

■BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

80%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



92

	評価点	■熊本県重点評価基準												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	98.8	<table><thead><tr><th>判定値(評価点)</th><th>ランク表示</th></tr></thead><tbody><tr><td>100点以上</td><td></td></tr><tr><td>80点以上100点未満</td><td></td></tr><tr><td>60点以上80点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点以上60点未満</td><td></td></tr><tr><td>40点未満</td><td></td></tr></tbody></table>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値(評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	81.2													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	87.5													
【重点事項4】 循環型社会の実現	94.5													

※評価点は、100点以上が推奨です。

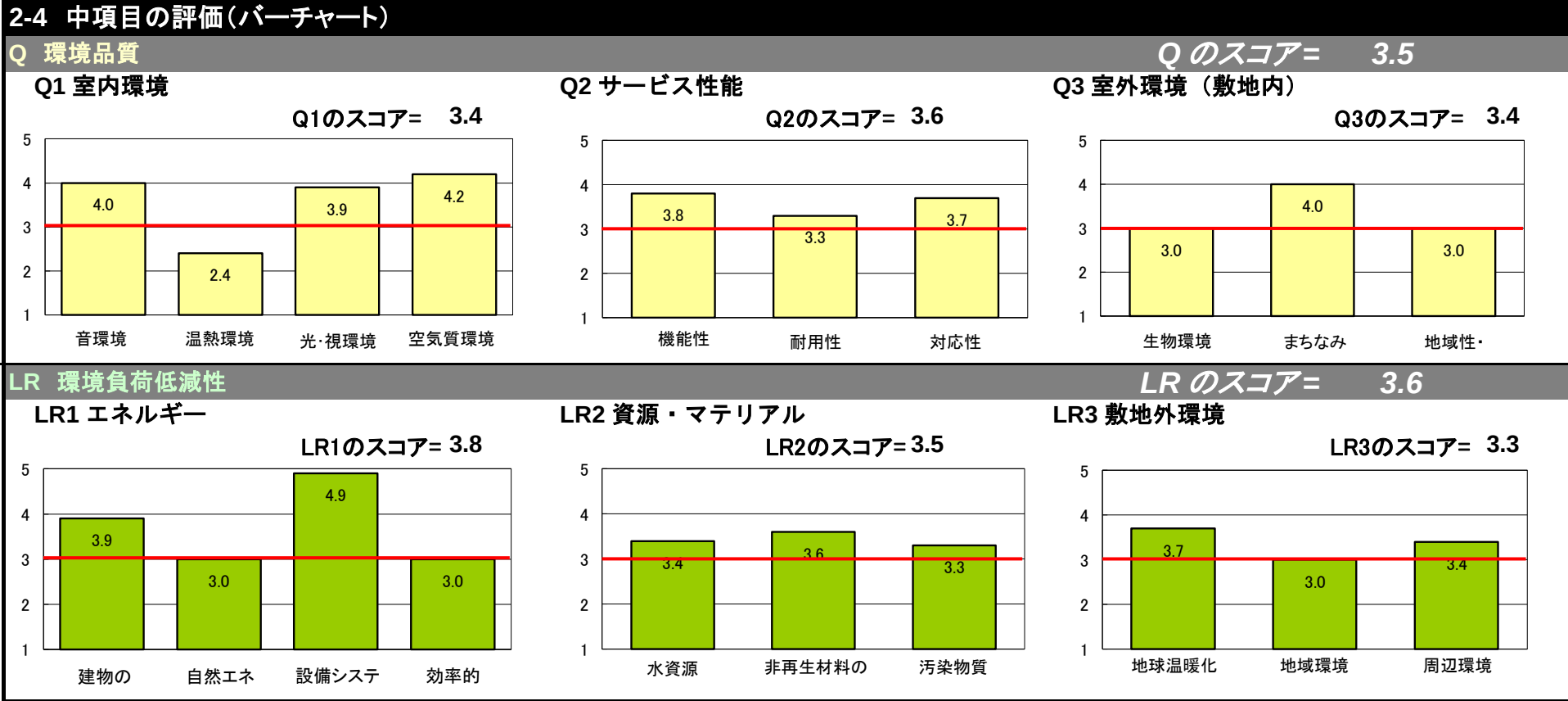
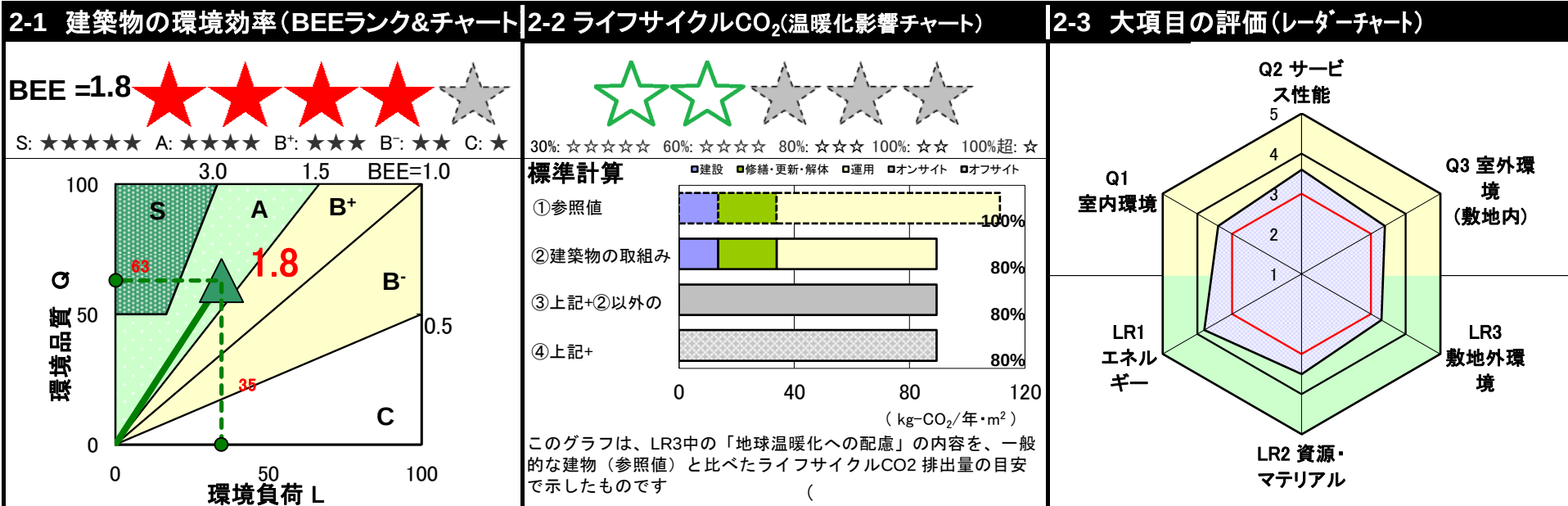
CASBEE®

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(熊本地域) 2010年追補版Ver.2 (BPI&BEI対応) | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	西日本システム建設本社ビル(仮称)	階数	地上5F	
建設地	熊本県熊本市中央区萩原町427番6	構造	S造	
用途地域	工業地域 法22条地域	平均居住人員	150 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	1,920 時間/年	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年4月 予定	評価の実施日	2014年5月30日	
敷地面積	7,642 m ²	作成者	埴	
建築面積	1,146 m ²	確認日	2014年5月30日	
延床面積	5,356 m ²	確認者	森田	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補				■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版) 2010年追補版 Ver.2 (BPVBEI対応)				
西日本システム建設本社ビル(仮称)新築工事				欄に数値またはコメントを記入		■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v		
スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.5
Q1 室内環境					0.40			3.4
1 音環境				4.0	0.15	-	-	4.0
1.1 騒音				4.0	0.40	-	-	
1	室内騒音レベル	一般事務室の基準40～45dBを採用		4.0	1.00	3.0	-	
2	設備騒音対策			-	-	-	-	
1.2 遮音				4.2	0.40	-	-	
1	開口部遮音性能	T-2性能を有するサッシの採用		5.0	0.60	3.0	-	
2	界壁遮音性能			3.0	0.40	3.0	-	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	3.0	-	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	3.0	-	
1.3 吸音		床:タイルカーペット 天井:岩綿吸音板		4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境				2.4	0.35	-	-	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-	
1	室温			3.0	0.38	3.0	-	
2	負荷変動・追従制御性			-	-	-	-	
3	外皮性能			3.0	0.25	3.0	-	
4	ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	-	
5	温度・湿度制御			-	-	-	-	
6	個別制御			-	-	-	-	
7	時間外空調に対する配慮			-	-	-	-	
8	監視システム			-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.9	0.25	-	-	3.9
3.1 屋光利用				3.0	0.30	-	-	
1	屋光率			3.0	0.60	3.0	-	
2	方位別開口			-	-	3.0	-	
3	屋光利用設備			3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-	
1	照明器具のグレア			-	-	-	-	
2	屋光制御	庇+ブラインド		4.0	1.00	3.0	-	
3	映り込み対策			-	-	-	-	
3.3 照度		一般事務室750lx以上確保		4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御		1スパンごとに制御可能+屋光センサの設置		5.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境				4.2	0.25	-	-	4.2
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
1	化学汚染物質	化学汚染物質を含まない材料の使用 F☆☆☆☆の積極的採用		5.0	1.00	3.0	-	
2	アスベスト対策			-	-	-	-	
3	ダニ・カビ等			-	-	-	-	
4	レジオネラ対策			-	-	-	-	
4.2 換気				3.6	0.30	-	-	
1	換気量			3.0	0.33	3.0	-	
2	自然換気性能			3.0	0.33	3.0	-	
3	取り入れ外気への配慮	取入口と排気口が別の方位に向けられている		5.0	0.33	3.0	-	
4	給気計画			-	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1	CO ₂ の監視			3.0	0.50	-	-	
2	喫煙の制御			3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.6
1 機能性				3.8	0.40	-	-	3.8
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-	
1	広さ・収納性			3.0	0.33	3.0	-	
2	高度情報通信設備対応	50VA/㎡の電源容量、光通信配管・EPSの設置		5.0	0.33	3.0	-	
3	バリアフリー計画	特定建築物の建築等に係る事前協議に適合		4.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	-	-	
1	広さ感・景観	一般事務室 天井高2.7m		4.0	0.33	3.0	-	
2	リフレッシュスペース	基準階に28㎡程度(基準階面積の2%)の休憩室・自販機コー		5.0	0.33	-	-	
3	内装計画			3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計	防汚性・耐久性に配慮した床材、外部鉄部の亜鉛メッキ等		4.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
3	衛生管理業務			-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.3	0.31	-	-	3.3
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-	
1	耐震性			3.0	0.80	-	-	
2	免震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.9	0.33	-	-	
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.23	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	アルミ建具、PCa版		5.0	0.23	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	花崗岩、タイル、ビニルタイル、ビニルクロス等		5.0	0.09	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管にステンレス管、汚水・雑排水に硬質塩化ビニル管の使用		5.0	0.15	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新									
2.4 信頼性				3.4	0.19	-	-		
1	空調・換気設備	非常用発電機 屋上への電気設備設置	3.0	0.20	-	-			
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-			
3	電気設備		4.0	0.20	-	-			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-			
5	通信・情報設備		4.0	0.20	-	-			
3 対応性・更新性				3.7	0.29	-	-	3.7	
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31	-	-	3.0	
1	階高のゆとり	階高4.0m	5.0	0.60	-	-			
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.12	4.0	0.40	-	-			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-			
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-			
1	空調配管の更新性	構造部材・仕上げとも痛めることなく更新可能	3.0	0.17	-	-			
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-			
3	電気配線の更新性		5.0	0.11	-	-			
4	通信配線の更新性		5.0	0.11	-	-			
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-			
6	バックアップスペースの確保	予備の空調室外機置場を計画	4.0	0.22	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	3.4	
1 生物環境の保全と創出				3.0	0.30	-	-	3.0	
2 まちなみ・景観への配慮			既存樹木の保存 建物配置に配慮し周辺への圧迫感低減	4.0	0.40	-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.6	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.8	
1 建物の熱負荷抑制			PAL=258.3 (基準値300)	3.9	0.30	-	-	3.9	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0	
2.1	自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-		
2.2	自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-		
3 設備システムの高効率化			一次エネルギー消費量5,824.6MJ/㎡・年 (基準値8,127.5MJ/㎡・年)	4.9	0.30	-	-	4.9	
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)			ERR=5.2%	4.9		-	-		
集合住宅の評価				3.0		-	-		
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0	
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.5	
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1	節水		節水型機器・節水コマの採用	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.6	0.63	-	-	3.6	
2.1	材料使用量の削減		- タイルカーペット、ビニルタイル、クロス	3.0	0.07	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み		カーテンウォール(Pca版) 乾式間仕切り 鋼製間仕切り	4.0	0.24	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22	-	-	3.3	
3.1	有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を使用している	5.0	0.32	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				2.5	0.68	-	-		
1	消火剤			-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)			2.0	0.50	-	-		
3	冷媒			3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.3	
1 地球温暖化への配慮			省エネ機器の採用による運用段階のCO2削減	3.7	0.33	-	-	3.7	
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止			駐輪場の設置、十分な量の駐車場、敷地出入り口2ヶ所計画	3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.3	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減			-	-	-	-		
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.33	-	-		
3	交通負荷抑制			5.0	0.33	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制			2.0	0.33	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33	-	-	3.4	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			1ランク上の日影規制をクリア 拡散性の低い屋外照明器具 屋外照明なし	3.0	0.40	-	-		
1	騒音			3.0	1.00	-	-		
2	振動			-	-	-	-		
3	悪臭			-	-	-	-		
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制				3.3	0.40	-	-		
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制			1.0	-	-	-		
3	日照障害の抑制			4.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制				4.4	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			5.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

白や明るいグレーを基調とした外装の色彩計画および既存樹木の保全等により、周辺地域の景観に配慮している。
非常用発電機により、事業継続性の確保に努めている。
敷地内にある自然由来の汚染土部分は、手を加えない建築計画・施工計画としている。

Q1 室内環境

外壁庇やLow-eペアガラスの採用により空調負荷の低減を図っている。
建築材料は、化学汚染物質を含まないものを採用している。

Q2 サービス性能

建築物移動円滑化基準を満たすことで利用しやすい施設としている。
十分な階高設定、整形な平面計画により、フレキシビリティの高い事務室としている。
信頼性向上のため、非常用発電機を設置している。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地北側の既存樹木を極力残し、生物環境の保全に努める。
敷地西側は植樹することで、地域の景観に貢献する。

LR1 エネルギー

自然採光や省エネ機器の採用により、エネルギー負荷の小さな事務室計画としている。

LR2 資源・マテリアル

内装仕上げに対し、リサイクル材を採用している。
有害物質を含まない材料を使用している。

LR3 敷地外環境

敷地境界から十分な離隔を確保することで、周辺への圧迫感低減を図っている。
十分な量の駐車場を確保し、路外駐車や交通混雑の緩和に配慮している。

その他

当該敷地内の一部は、土壌汚染対策法の指定区域として指定されていることから、指定範囲から汚染土を掘削・敷地外へ搬出することないよう、建物配置や外構計画に配慮するとともに、施工者に対しても指定範囲の掘削・搬出を厳禁としている。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 西日本システム建設本社ビル(仮称)新築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		92.2
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				98.8	0.40	39.52
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.9	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.9	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				81.2	0.20	16.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				87.5	0.20	17.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				94.5	0.20	18.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数